

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	H.H.	学部・学科	国際商学部 国際商学科
学年	3年	派遣国	ドイツ
派遣大学	ゲーテ大学フランクフルトアムメイン経済経営学部		
期間	2023年09月01日～2024年08月10日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ( )					
部屋	個室 / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ( )					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	△(暖房)	冷蔵庫	◎
滞在費	約 ( 150,000 ) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃(閉鎖口座 934€の円換算)					
移動	( バス/トラム ) で、約 ( 15 ) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
食費	22,400 円	食料品・飲料
学用品購入費	0 円	
交通費	8,000 円	学期ごと(半年)に一括 330€ほどのチケット
交際費	24,000 円	外食・施設入場費
その他	0 円	
合計	54,400 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

-フランクフルト中央駅周辺はドイツ全土の中でも比較的治安が悪い。昼間から不審な行為を行う者が多く、夜はより一層危険。中央駅から伸びる大通りはかなり緊張感があるため、一人で歩くのは好ましくない。

-一方で、大学・寮周辺は治安がいいと感じた。高級住宅街が広がっていることもあり、こちらに関しては夜間に歩く機会があったとしても問題はなさそうだと感じた。

-イベント期間中は叫んでいる人が多く危険である。現地の学生とともに行動し自分の活動範囲を広げていくのが最善であると感じた。

### 3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ( )		
加入期間	( 11 ) ヶ月間	保険料	( 137,000 ) 円

現地の国/大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	Techniker Krankenkasse (TK)		
加入期間	( 10 ) ヶ月間	保険料	( 月 20,000 ) 円

### 4. 滞在都市についての情報

滞在都市/町 ( フランクフルト(アムライン) )

メイン川辺りのフランクフルトとして都会的な町である。多くのドイツの都市は、都市機能が分散している点から各都市の発展具合では東京と比べ劣る印象がある。しかしフランクフルトに関しては、国際的なハブ空港として使われるフランクフルト空港がある点や、数多くの金融機関が同居する高層ビル群がある点から、非常に都会的な空気を感じられる。

一方で芸術・歴史の側面も魅力的だ。シュテーデル美術館をはじめとする多くの美術館や博物館が街全体に点在しており、ヨーロッパの都市の中でも比較的多くの価値に出会える町である。マルクト広場を中心とする歴史的な景観を楽しめるのも興味深い。この点で、単なる国際的な金融の街というわけではなく、芸術や歴史面でも飽きのこない町である。

地理的にも非常に利便性が高い。ドイツ中心地から南西部分に位置しており、そこから広がる鉄道網が魅力的である。北はカールスルーへ、南はマンハイム、東はヴェルツブルク、西はコブレンツ。これらの都市を通じてドイツの隅々まで訪問することが可能だ。ドイツには月額 1 万円以下で一部公共交通機関が乗り放題になる「D チケット」というもの

が存在し、このチケットとフランクフルトの地理的利便性、交換留学の長期滞在が相まって低コストで満足感ある旅行が楽しめる。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ゲート大学	所在地	Theodor-W.-Adorno Platz 5 · 60323 Frankfurt am Main
最寄空港	フランクフルト空港	空港からの距離	5km
空港⇄大学	( 地下鉄(S-Bahn)、路面電車(Tram)、バス、タクシー )		
学生数	47,000 人	留学生数	7,300 人
学部	01 Law 02 Economics and Business Administration 03 Social Sciences 04 Educational Sciences 05 Psychology and Sports Sciences 06 Protestant Theology 07 Roman Catholic Theology 08 Philosophy and History 09 Faculty of Linguistics, Cultures, and Arts 10 Modern Languages 11 Geosciences and Geography 12 Computer Science and Mathematics 13 Physics 14 Biochemistry, Chemistry and Pharmacy 15 Biological Sciences 16 Medical Science		
学部/専攻	02 Economics and Business Administration		

## 2. 週間スケジュール

### ① (10)月～(2)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		経済成長	マクロ経済学 1	経済成長（隔週・演習）	マクロ経済学 1（隔週・演習）
午後	マクロ経済学 1	金融政策		金融政策（隔週・演習）	

### ② (4)月～(8)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前			国際金融	国際金融（隔週・演習）	
午後	気候変動のマクロ経済学 労働市場の経済学	因果推論のマクロ経済学	気候変動のマクロ経済学（隔週・演習）	因果推論のマクロ経済学（隔週・演習）	労働市場の経済学（隔週・演習）

### 3. 履修内容

科目	マクロ経済学 1		
履修期間	2023/24winter	単位数	12
授業内容／形態	<p>目的：経済学を巨視的に捉え分析するマクロ経済学の方法論を定量的に習得することを目標とする。</p> <p>概要：マクロ会計的な概念や語彙をまずは習得し、景気循環論や経済成長論につながる分析手法を学ぶ。最終的には IS-LM(TR)モデル分析を通じた経済学的説明を求められる。</p>		
成績	3.0		
YCU 振替予定	科目	マクロ経済学 II ・ Macroeconomics1 ・ 特講（留学科目 B）	
	単位数	6 単位	
	担当教員	菊池ほか	

科目	経済成長		
履修期間	2023/24winter	単位数	6
授業内容／形態	<p>目的：マクロ経済学の関心である「景気循環論」と「経済成長論」の後者に着目したもの。長期的な経済成長についての方法論と議論を進める</p> <p>概要：講義で、ソローモデルから AK モデルや内的成長モデルなど経済成長モデルの特性を理解しながら経済的理由を探っていく。なぜ経済動向の傾向があるのか定量的に分析できるようになる。</p>		
成績	5.0 不可		
YCU 振替予定	科目	---	
	単位数	---	
	担当教員	---	

科目	金融政策		
履修期間	2023/24winter	単位数	6

授業内容／形態	<p>目的：金融仲介理論の基本とともに、金融システムと資金チャネル、金融市場、金融組織の役割理解を目標とする。</p> <p>概要：講義では、金融システム、金融取引、金融政策と金融システムの安定というテーマを中心に教科書に沿って学ぶ。その後、金融システムの歴史や今後の課題を最新情報をもとに検討を加える。</p>	
成績	2.3	
YCU 振替予定	科目	金融システム論
	単位数	2 単位
	担当教員	—

科目	気候変動のマクロ経済学		
履修期間	2024summer	単位数	6
授業内容／形態	<p>目的：気候変動による経済リスクを物理リスクと移行リスクに分別し、それらのリスクと経済波及の理解を目標とする。</p> <p>概要：講義では、物理リスクと移行リスクを学び、その後民間、政府、金融の各セクターでどのような影響があるかを学ぶ。最終的にはケーススタディを通じて今後起こりうる事例の理解を深める。</p>		
成績	3.3		
YCU 振替予定	科目	環境経済学	
	単位数	2 単位	
	担当教員	—	

科目	労働市場の経済学		
履修期間	2024summer	単位数	6
授業内容／形態	<p>目的：財市場、金融市場とならびマクロ経済学的に重要である労働市場について様々な議論を通じて理解を深めることが目標である。</p> <p>概要：労働市場に関して定量的なモデルを構築し、分析を行う。また、実証実験と行き来することで理論に偏らない学習が可能である。演習では指定された論文について議論する時間が設けられる。</p>		
成績	3.7		

YCU 振替予定	科目	労働経済学
	単位数	2 単位
	担当教員	—

科目	因果推論のマクロ経済学		
履修期間	2024summer	単位数	6
授業内容／形態	<p>目的：因果推論の方法論について、マクロ経済学における事例を適用させ学んでいく。</p> <p>概要：相関関係が因果関係とは違うことを留意し、因果推論の方法論を学んでいく。RCT や操作変数法、DiD、事象調査など因果関係の方法論をその特性を理解しながら習得する。</p>		
成績	5.0 不可		
YCU 振替予定	科目	—	
	単位数	—	
	担当教員	—	

科目	国際金融		
履修期間	2024summer	単位数	6
授業内容／形態	<p>目的：為替取引に関して理論の学習を目標にする。</p> <p>概要：スポット、フォワード、スワップ、オプションの大きく四つの項目に分けて学習する。為替レートの計算をもとに実際に手を動かして数値を求めていくため、定量的な手法が身につけられる。歴史的な事例の側面はあまりない。</p>		
成績	2.3		
YCU 振替予定	科目	国際金融論または特講（留学科目）	
	単位数	2 単位	
	担当教員	—	



科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想 \*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800字以上)

留学生生活を通じて得られた気づきや学びは「二つの概念を行き来すること」だ。例として挙げると「具体」と「抽象」であったり、「演繹」と「帰納」だったり、または「マクロ」や「ミクロ」である。「日本語」と「英語」でもそうだし個人的には「私的財産」と「世界遺産」でもあるし、「数学」と「歴史」もそうだ。そういった、なんだかぼんやりと背反する二つの概念の特性について真剣に考えられる機会が多かった気がした。

小難しい哲学や論理学の講義を受けたというわけではなく、最終的な目標である社会事象の理解のために何をコンパスとして突き進んでいくのかの方法論を吟味した、という感触だ。海外（ドイツ）にいるという前提から目の前に見える連続的な変化全てに価値があり、今までの常識をぶつけては考え探っていく。一方で、その疑問をぶつける一連の流れに飽き飽きし、思考を放棄する。そういったサイクルが繰り返された結果、物事に対してどう考えるか「型にはまった柔軟さ」という矛盾した視点を得られた気がする。方法論を習得しつつも別にそれに拘っていない。しかし、ある程度納得感を持って自己実現に導けるコンパスは手に入れて…というような、そんな具合だと思っている。

そのコンパスの第一段階が二つの概念を行き来することであり、今後は豊かな人生経験を通じて様々な視点を獲得することができるのだろうという期待が出てきた。その期待通り、様々な変数に対してゆったりと進むことができるようになりたいが、その頃にはもう老いた顔と直面し、社会から取り残されているかもしれない。

長期的にみて価値があるかどうかはわからないが、少なくとも二十歳でこの考えに行き着いた事実だけは信じてみたい。

(2) 今後の展望 \*この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

1つは社会に対して誠実に向き合うために生かしていきたい。今回の経験の根底にあるものは高校時代の理想の実現だった。図書館から現地への移行を通じた新たな視点の獲得。これ以上でもこれ以下でもなかったために、その実現は振り返ってみると容易いように思えた。一方で、今後は人を巻き込んでいくことに対してまだまだ真剣に向き合っていないように思えた。そこには自分では当たり前だった誠実さが鍵となると感じている。この鍵がどのようにして次の扉を開けるのかがまだわかっていない。試行錯誤を繰り返し、今の悩みを肯定できる未来にしていきたい。

もう1つは留学にとらわれず活動していきたい。年々増加する留学者数の傾向から留学経験自体にはあまり価値を見出せないという考えがあるがそうではない。人物の特性として「留学してたから」を理由に大胆な行動をできるところを軸に考えている。しかし、そこに思い上がることなく、自分の一面として捉えゆったりと進んでいきたいと私は望んでいる。

(3) 後輩へのアドバイス \*留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

・日本人が多い場所はお勧めしない。自分の場合、なるべくポジティブな視点を持って対応したが、留学の真の価値を見出す過程の「言い訳」になる十分な条件になる。例えば日本人がいたから日本語が上達しドイツ語が上達しなかった…なんて言い訳ができてしまう余地がある。日本人は少ければ少ないほど留学期間の成長率は高くなる。